

教育のさらなる振興をめざして、教育振興基本計画を策定

市は、朝来市教育振興基本計画「あさご夢・学びプラン」を策定しました。

この計画は、教育全般に関して市で取り組むべき方向性を示したもので、国や県の教育に関する計画などと整合性を図りながら、「朝来市総合計画」に示された市立小・中学校の教育や社会教育などの施策に加え、生涯学習や地域教育、家庭教育などの施策を提示しています。

計画の期間は、平成22年度から平成26年度までの5年間。市は、この計画に基づいて、家庭や

地域、学校と連携・協力しながら、具体的な施策を進めていきます。

スローガン 教育・郷育・共育による心豊かな人づくりー郷土の特色を生かし共に高めあうー一貫性のある教育の推進ー

重点目標

1. 国際社会に対応する頼もしい次世代を育てるために、信頼される学校園の教育を確立する。
2. 家庭・地域の教育力の向上をめざし、協力・支援体制を構築する。
3. 地域での学習環境の充実を図るとともに、郷土の魅力を生かした文化・スポーツ活動を促進することにより、生涯学習の基盤をつくる。

竹田城跡のジグソーパズルが完成

市は、国史跡竹田城跡のPRに役立てようと、ジグソーパズルを作成しました。

大きさは、縦38センチ、横53センチで500ピース。図柄は、和田山写真クラブ提供の、雲海に浮かぶ竹田城跡を使用。四季折々の姿を見せる竹田城跡の中で、最近特に人気のある風景です。

販売価格は千円で、市役所商工観光課、市民課、市内の道駅などで販売し、通信販売も可能。子どもから大人まで楽しめるジグソーパズルで竹田城跡に触れてみませんか。



問い合わせは市役所商工観光課まで ☎ 672 - 4003

我がまち朝来 再発見

第36回

華やかな律令時代を支えた人たち
～田吉女という人～

今年、平城京遷都から数えて1300年の節目。奈良では平城京遷都1300年祭が開かれ、華やかな律令文化が紹介されています。そしてこの時代を支えていたのは多くの民衆の力によるものだったのです。この朝来市からも奈良の都において厳しい労働を課せられた人の記録が残っています。

天平勝宝元年(749)、聖武天皇は、15〜30歳の容貌端正な奴婢を進上するように全国に命じました。当時は東大寺大仏殿の造営が急ピッチで進められている頃でした。但馬からは天平勝宝2年(75

0)、15〜24歳の5人の奴婢を東大寺に送った記録が正倉院文書「但馬国司解」に残されています。

この5人の奴婢は、池麻呂(いけまろ…24歳、男)、糟麻呂(かすまろ…24歳、男)、藤麻呂(ふじまろ…15歳、男)、田吉女(たきめ・たきちめ…19歳、女、小當女(こまさめ…17歳、女)の3人の奴と2人の婢として記されています。

送られた5人の奴婢のうち、田吉女は朝来の人。「朝来郡桑市郷(さとう)主赤染部大野之婢」と記されています。和名類聚抄では朝来郡内(※古代の朝来郡は生野町と和田山町大蔵地区と糸井地区を除く範囲)に存在する郷として9つの郷が記されていますが、桑市郷もその中の一つです。現在の朝来市桑市を中心とする地域と考えられますが、その正確な範囲は明確ではありません。さて、但馬から東大寺に送られた奴婢たちの過酷な労働実態の一端を示す逃亡記録を時系列に整理して紹介しましょう。